

平成23年度率先実行大賞 受賞取組概要

※応募を受け付けた順に掲載

部局名		活動テーマ	グループ名	取組概要
1	教育委員会	(1) ★先生になった生徒たち！！★生徒が教える地域公募型授業「わくわく農林塾」	久居農林高等学校	これまで学科各コースが独自に企画立案・実施してきた保幼小中との交流授業を、平成22年度よりキャリア教育への対応を目指し、「わくわく農林塾」という学校挙げての取組と位置づけて進めていくこととした。この「わくわく農林塾」では、参加者を広く地域にも公募して交流の枠を広げ、地域の学習センターとしての貢献度アップを図るとともに、生徒に指導する役割を課すことで生徒の学習の深化を図った。 この取組への受講者数は千名以上となり、感謝と継続開催を訴える声が寄せられるとともに、生徒のコミュニケーション能力の向上や教員の一体化などに効果をあげている。
2	農水商工部	(11) チャレンジドと協創するアグリチャレンジ～めざせ！障がい者雇用率日本一	桑名農政環境事務所で農業と福祉の連携を考えるグループ	福祉事業者の農業参入や障がい者の就業の場を農業で創造するため、東員町で取り組まれていた農福交流を発展させるなかで、知的障がい者に適した就労環境の形成、そのための側面支援のあり方や手法について、モデル農家を設定し、現地実証に取り組んだ。 その結果、6人の障がい者に定期的な就業の場が提供され、就業に必要な農作業のリスト化手法が確立された。
3	企業庁	(27) ベテラン職員からの“贈る言葉！”「後進に伝えたい熟練者の暗黙知」	企業庁人材育成部会	ポスト団塊の世代が大量に退職し、豊富な経験を有する職員が減少する状況において、そうした「暗黙知（言葉で表現することが難しい知識）」の若手への技術継承が求められている。企業庁では、ベテラン職員の講師起用、ベテランと中堅・若手の混成による講師チームの結成、実践的な模擬演習など、試行錯誤しながらベテラン職員の「体験談」を交えつつ、文書では伝わらない暗黙知の継承に取り組んだ。 研修終了後のアンケートでは、参加者全員が「他の職員に受講を薦める」と回答し非常に好評である。また研修を通じて、複数の職員が有する暗黙知を共有することで、より高度な暗黙知の創出にもつながっている。
4	出納局	(68) ～これで収入アップ↑～ 売り払いマニュアル作成への取り組み	よくわかる！ 売り払いマニュアル作成WG	今まで廃棄していた物品も、売払いが可能であれば県の収入となるとともに、売払収入が増えるだけでなく、売ることによって廃棄費用が不要になり、経費の削減となる。しかし「売れるものは売るように」と働きかけていた出納局の職員も、売り払いに対する十分な相談にこたえられていないことから、正確で迅速に回答できる相談対応マニュアルを作成した。作成にあたっては、各所属の職員が「これならできる」と思えるような、わかりやすいマニュアルの作成に取り組み、将来的な各所属での使用を目指している。
5	教育委員会	(87) 聴覚障がい児の社会自立に向けての第一歩 ～日本語習得の取組～	聾学校小学部	聴覚に障がいのある子どもたちの教育課題である日本語習得に対して、この課題解決のため、外国人への日本語指導理論を参考に、独自の日本語文法指導方法を日々の実践から構築した。この指導方法は、子どもたちの日本語習得に大きな成果をあげているとともに、「第60回読売教育賞優秀賞」を受賞するなど、各方面から高い評価を受け、本校で作成している冊子（聴覚障がい児へ係わる方へⅠ～Ⅳ）を発送してほしいという希望が全国から相次ぎ、これまでの発送部数は13,000部を超えるまでとなっている。
6	環境森林部	(91) 産廃問題における住民参画型の信頼関係の構築	廃棄物適正処理プロジェクト	産業廃棄物不適正処理事案のひとつである四日市市大矢知・平津事案では、地域住民の安全を確認し、安心を確保するために、400回を超える面談を通して、住民提案による「リスク評価表」を作成し、立案段階からの住民参画型の調査計画とリスクコミュニケーションにより信頼関係を構築するべく取り組んできた。その結果、地元との信頼関係を修復し、地元と県の相互理解のもと各種調査を効果的に進めることができ、こうしたプロセスを経て、平成23年11月には地元代表者と知事による「具体的な対策工法」に係る実施協定書を締結できた。

部局名		活動テーマ	グループ名	取組概要
7	企業庁	(133) 三者連携すれば「文殊の知恵」、三者協働による河川の水質改善！	水質管理情報センター	水道水にカビ臭が付くと不快であり、よく住民問合せの原因となる。しかし、カビ臭物質は規制されておらず、工場排水に含まれることも知られていなかったため、工場等への啓発と協力要請が課題となっていた。そこで、民間排出事業者（工場）、水資源機構（利水事業者）と企業庁が協働で、水道水源である木曾川の水質保全に3年間取り組んだ。取組後は、排水中の臭気物質の低減が図られ、河川の水質保全にも寄与できているとともに、水道水へのカビ臭に関する苦情・問合せ等もなくなった。
8	教育委員会	(147) 「授業対決」による授業改善	上野高等学校 全 日制	本校の指導における課題を明確にし、よりよい授業作りを目指すため、本校英語科教員と予備校講師が、同じクラスで連続した時間帯に、同じ教材を用いて「授業対決」を行い、事後検討会で、両者の授業のねらいを共有して「生徒にどのような力を付けられるか」の観点で討議を行った。この取組を通じて、教科書は、使い方・工夫次第で様々な力を付けられる教材であることを再認識するとともに、今回の「授業対決」をきっかけにして、若い教員の中で自主的に授業を見せ合って授業改善に繋げようとするグループも出来てきた。